

セグメント分析に関するワーキンググループ（第3回）の意見

○セグメント分析の実施について

- セグメント分析ワーキンググループとして、施設別財務書類等を作成するための統一した基準を示すというよりは、ある程度自治体の任意で実施できるようにしつつ、最低限入れた方がよいものについて示す方がよいのではないか。
- 行政の施設は利益を獲得することが目的ではないので、基本的には赤字になるが、それが毎年たまっていくと、財務書類上では債務超過になるため、変な誤解を与えないように留意が必要。
- 例えば施設の利用料金については、公的機関では100%利用料金で回収することはおそらくできず、施設別財務書類の数字を参考に、どの程度の利用料金を徴収していくことが財政運営上適当なのか、ある程度の目標値や改善ポイントを探していくことが、セグメント分析を実施する目的であり、導入を誘導する記述があるとよい。
- ダミーのものでよいので、具体的な数字を入れたサンプルを報告書に掲載すると、よりわかりやすくなり、やってみようという団体が出てくるのではないか。
- セグメント分析で一番重要なのは行政コスト計算書であり、それ以外では、例えば施設マネジメントであれば、貸借対照表の資産の情報が最低限必要となるが、必ず貸借対照表を作成しなければならないというわけではない。見せ方は任意であり、一般財源をどれだけ充てているかなど、より有用だと思われる情報があれば追加すればよいので、様式にはあまり拘らないほうがよい。
- 施設別財務書類の作成の仕方について、例えば執行データから抽出して読み替えていって、不明なものについては調査をするといった、できるだけシンプルな手順を示した方がわかりやすいのではないか。報告書をまとめる際には、初めて見る人にもわかりやすく工夫した方がよい。
- 見せ方も非常に重要であり、グラフや図などを用いて視覚に訴えることで、わかりやすさの面でも、課題の気づきやすさの面でも向上するので、事例などを示すとよい。